

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：教育費 項：教育総務費 目：教育指導費

事業名 授業目的公衆送信補償金（県立学校等）

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

教育委員会 教育総務課 ICT教育推進室 ICT教育企画係

電話番号：058-272-1111(内8525)

E-mail：c17765@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 18,263 千円 (前年度予算額：18,495 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	18,495	0	0	0	0	0	0	0	18,495
要求額	18,263	0	0	0	0	0	0	0	18,263
決定額	18,263	0	0	0	0	0	0	0	18,263

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

個別に著作者の許諾を得なくても、授業の目的で必要と認められる範囲の著作物を公衆送信することを可能にするため、改正著作権法 第35条（平成30（2018）年改正）により定められた、一定の額の補償金を支払う。

(2) 事業内容

学習支援ソフト等を用いたクラウド経由のデジタル教材配信、オンデマンド型遠隔授業、スタジオ型遠隔授業などにおいて、授業の目的で必要と認められる範囲の著作物を公衆送信する。

(3) 県負担・補助率の考え方

県負担10/10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補償、補填 及び賠償金	18,263	授業目的公衆送信補償金
合計	18,263	

決定額の考え方

--

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・岐阜県の教育、学術、文化及びスポーツの振興に関する大綱（R1～R5）
 1. ぎふへの愛着をもち、世界に視野を広げ活躍する人材の育成
 - (4) 情報活用能力の育成とICTを活用した学習活動の充実
- ・第3次岐阜県教育ビジョン（R1～R5）
 - 基本方針3 未来を切り拓くための基礎となる力をはぐくむ教育の推進
 - 目標12 ICTを活用した学習活動の充実

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

教育のICT化が進む中、学習支援ソフト等を用いたクラウド経由のデジタル教材配付、オンデマンド型の遠隔授業やスタジオ型遠隔授業などにおいて、授業の目的で必要と認められる範囲の著作物を公衆送信する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

○指標を設定することができない場合の理由

改正著作権法 第35条（平成30（2018）年改正）により定められた、一定額の補償金支払いのための事業であり、指標の設定になじまない。

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和 3 年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和 4 年度	<p style="color: red;">令和6年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) <small>3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない</small></p>	
(評価) 2	<p>「学校の新しい生活様式」及び「GIGAスクール構想」に適応・対応するため、全児童生徒を対象として、1人1台端末整備及び端末を有効活用するための学習支援ソフトの導入やオンライン会議室整備により、きめ細かな授業展開が行える環境が整った。その中で教育の質の向上を図り、授業目的公衆送信における著作物の円滑な利活用を行うため、必要性は変わらず高い。</p>
<p>・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) <small>3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価)	
<p>・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) <small>2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている</small></p>	
(評価) 2	<p>1人1台端末整備により、今までは紙で行っていた授業プリントは、学習支援ソフト等を用いたデジタルで扱うようになり、効率性は高くなっている。</p>

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 教員等へ授業目的公衆送信補償金制度の概要について理解、普及に努める必要がある。</p>

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか ICTの利活用を促進する上で必要不可欠な経費である。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	

県単独補助金事業評価調書

 新規要求事業

 継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	
補助事業者（団体）	（理由）
補助事業の概要	（目的） （内容）
補助率・補助単価等	定額・定率・その他（例：人件費相当額） （内容） （理由）
補助効果	
終期の設定	終期〇〇年度 （理由）

(事業目標)

・ 終期までに何をどのような状態にしたいのか

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

補助金交付実績 (単位：千円)	R元年度	R2年度	R3年度

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	・取組内容と成果を記載してください。
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和3年度	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
	令和6年度当初予算にて追加
令和4年度	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価)	
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)	
(評価)	
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価)	

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか
--